大阪市立天満中学校夜間学級

視察日時　令和４年７月１３日（水）　午後４時５０分～午後６時２０分
視察場所　大阪市北区神山町１２－９

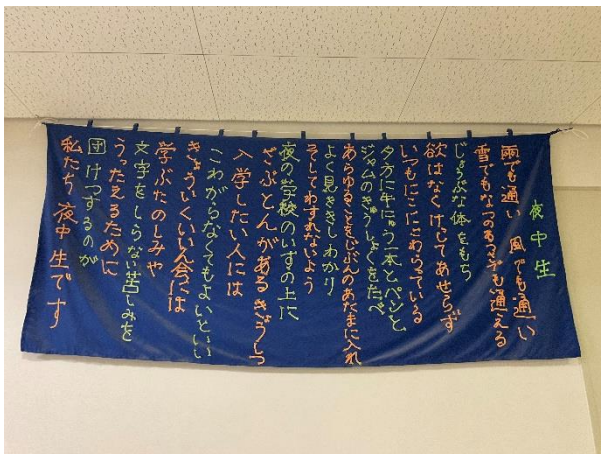
１．視察の目的

大阪市では、夜間学級を設置している中学校が４校（天満【北区】、天王寺【天王寺区】、文の里【阿倍野区】、東生野【生野区】）あり、元々、戦後の混乱や経済的な理由などで義務教育を受けられなかった人が学ぶ場として設けられていた。

近年、不登校の児童・生徒や外国籍者の増加で、その役割に注目が集まっている。また、平成 28 年 12 月に、夜間中学などの就学機会の提供を求める「教育機会確保法」が成立し、全ての都道府県に夜間中学の設置を求める内容となっている。

今回は、４校のうち天満中学校夜間学級の現状、課題及び今後の運用について視察した。

２．天満中学校夜間学級の沿革・教育目標



昭和 45 年４月１日、菅南中学校夜間学級として開設。平成７年４月１日、菅南中学校と扇町中学校の統合により天満中学校開校。天満中学校夜間学級として新たにスタートし、現在に至る。

教育目標は、人間尊重の精神を基盤としてより健康で心豊かに「生きるための学力」の育成を図る。

３．夜間学級の現状について

天満中学校夜間学級は、元来、戦争や貧困、病気、家庭の事情などにより、義務教育を修了することができなかった人たちのために設けられたものであるが、平成 28 年度からは、授業への参加が不十分な状態のまま中学校を卒業した人たちの受入れも始まった。

同校では、中学校の学習内容を生徒の学力に応じて分かりやすく学べるように、工夫を凝らした授業を行い、日常生活や仕事に必要な知識などを身につけられるようになっており、卒業生の中には高校や職場で活躍している人もいる。

また、夜間学級での授業はもとよりミニ運動会や修学旅行などの行事を通じて、年配の方であれば１つ１つの行事が自分の人生を取り戻すような貴重な場所となり、外国籍の方であれば日本で生活基盤を築く入口として果たす場所となっている。

（１）生徒数の内訳について

近年の生徒数の推移について、平成 21 年度の 111 人を最高に徐々に減少傾向にあり、令和４年５月１日現在で 74 人である。

また、原則３年で卒業であるが、本人の状況によって６年以内の在籍を認めており、別途、既卒生が 11 人在籍している。

（単位：人）

	在籍者数		
	男	女	計
１　年	1	3	4
２　年	11	12	23
３　年	17	30	47
合　計	29	45	74
既卒生	3	8	11

学級数は、本来は４学級であるが、学校の工夫で５学級編成としている。
年代別及び国籍別在籍者数は、下記のとおりである。

（単位：歳・人）

16～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60 以上	合　計
14	23	5	5	10	17	74

（単位：人）

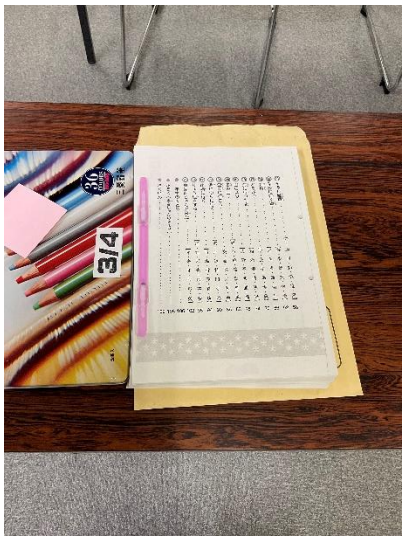
日　本	韓国・北朝鮮	中　国	ネパール	フィリピン
17	2	11	38	1
ブラジル	タ　イ	パキスタン	合　計	
2	2	1	74	

市内に４校ある夜間学級の国籍別在籍者数について、地域でそれぞれ特徴があるが、天満中学校は圧倒的にネパール国籍の在籍者数が多い。

主な理由として、大阪に生活基盤を持つカレー店を営むご両親が、経済的にゆとりがあるため、子供に日本で勉強させるという傾向が増えているとのことである。

入学資格については、中学校を卒業していない人または十分な教育を受けないまま中学校を卒業した人で満 15 歳を超え、大阪府内に住んでいる人が対象となる。74 人の在籍者のうち、市外在住者が 10 人（吹田市５人、高槻市３人、茨木市１人、和泉市１人）いる。

入学受付期間は毎年２回設けており、４月入学と９月入学がある。単に日本語を勉強したいという理由ではなく、中学校の学習内容を学ばせることを基本としているが、日本語指導が必要な生徒が増加しているため、令和４年度に限り、片言の日本語しか話せない人は断っているということで、理想と現実のギャップがあることがかいま見えた。



本人の習熟度合いにより学年編成をしており、令和４年度４月入学者数は、第１学年が４人、第２学年が 14 人、第３学年が５人（うち既卒者２人）、計 23 人である。

また、令和３年度における年齢別の出席率について、天満中学校全体で 42.9％と他の市内３校と比較して劣っている（天王寺 44.9％、文の里 57.9％、東生野 57.7％）。

戦争や貧困、病気、家庭の事情などにより、勉強ができなかった理由から夜間学校に在籍しているが、仕事や自己都合の理由から出席率が伸び悩んでいる現状もうかがえる。

（単位：歳・％）

16～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60 以上	合　計
64.0	26.8	49.0	25.7	47.7	59.3	42.9

なお、令和３年度卒業者のうち進学した人は、全日制高等学校が１人、定時制高等学校が２人の合計３人であった。

（２）教員に係る課題について

天満中学校夜間学級の職員体制は、校長（昼間・夜間兼務）、教頭（夜間専任）、専任教諭６人、常勤講師２人、非常勤講師（体育・技術・家庭など）12 人（うち６人は会計年度任用職員）及び養護助教諭１人の合計 23 人である。

基本的に職員の人事異動は昼間・夜間区別なく行われているが、近年は、管理職以外の教諭について、希望による夜間学級への異動や、新採教諭の夜間学級への配属ということもあるという。

新採教諭は、市教育委員会が主催する教員研修の受講が必修であるが、研修が夕方に開催されるため、夜間学級の授業に間に合わない状態になるとのことである。

また、例えば、若年教諭が４年から６年もの間、夜間学級で勤務した後、昼間の学校に異動したときに、夜間と昼間の違和感に戸惑うことは容易に想像される。

夜間中学校のため中学校教諭の免許が必修であるが、学習内容が昼間と夜間では全く違うため、実質、教育課程的には小学校１年生から中学校３年生までの分を網羅しなければならないなど、夜間学級独自の課題が浮き彫りとなった。

（３）財政面における課題について

夜間学級の生徒に係る授業料は無償である。ただし、学校での傷害保険や生徒会費などで 3,000 円程度の負担があり、遠足や修学旅行などは交通費（学割有り）などの実費がかかる。また、就学援助制度もあり、３割の生徒が援助を受けている。

文部科学省の施策において、基本的に昼間・夜間の区別はない。教諭の基礎定数に関しても、１学級 40 人基準は昼間学校と同様である。

それ以外の夜間学級特有の予算として、毎年度、研究委託費（中学校夜間学級の充実・改善等への取組事業）がある。夜間学級における学習活動の研究委託という名目であるため、例えば、日本語指導を充実させるための講師派遣などを行っているとのことである。

しかし、この費用は一律であり、かつ、現在の年額 65 万円を大阪市内の夜間学校４校に振り分けられるということであり、１校あたり 162,500 円と非常に厳しい額であると言わざるを得ない。

４．質疑応答

（問）

夜間学級での基礎定数の確認について

（問）

入学資格において、十分な教育を受けないまま中学校を卒業した人とあるが、入学可否に係る詳細な線引きがあるのか。

（答）

本人の状況把握については、確認が非常に難しいため、学校又は教育委員会との面談において本人の状況を聞き取りし、判断している。よって、線引きはない。

（問）

形式卒業した方は増えているのか。

（答）

外国籍の方が義務教育を修了しているか否かについて、制度が国によって違うため、その確認は難しい。そういったことも含め、外国籍の方の形式卒業や、最近、非常に話題になっている不登校経験者で、16、17 歳くらいの若い方であっても学び直しを希望する方がいるので、形式卒業の方は増加傾向かなと思う。

（問）

既卒生で現在も在籍している方（男性３人、女性８人）がいるが、その中に外国籍の方はいるのか。

（答）

はい。ネパールは義務教育が８年のため、高校に進学するためには、あと１年学ばなければならない。在籍年数が 10 年を超える方やＳＥＡという国の試験に合格している方はお断りしているが、そうでない方は教育委員会の面談を受けた後、在籍していただいている。

（問）

ネパール国籍の方が多いのは、そういったことが影響しているのか。

（答）
そうであると思う。
（問）
学び直しという部分もあるが、自国で次のステップを踏むための目的で在籍する方がいるのか。
（答）
これまでは、日本語を学びたいという方が多かったが、近年、ネパールでは、コロナ禍により学校が休校となっているため、大阪に生活基盤を持つカレー店を営むご両親が、経済的にゆとりがあるため、子供に日本で勉強させるという傾向が増えている。よって、大阪は夜間学級も多いが、昼間学級もネパール国籍の方が増えている。
同様に、13、14 歳くらいの学齢の子であるならば、当然、昼間学級に編入するということが増えつつある。
例えば、1 つのエリアにネパールの方々の口コミではないが、そこに行けば何かしらコミュニティとして協力や助け合いができるかなということで、増えてくるという傾向があるのかと思う。
（問）
仕事でネパール国籍の方々を雇用している会社があるということではないのか。
（答）
そこまで我々はリサーチできていないが、ビザの関係かと思う。いわゆるインドカレーシェフでのビザ取得が容易であると聞いたことがある。

（問）
白山市においては、ベトナムやミャンマー国籍など東南アジア系の方が多いが、資料を見る限り、そのような傾向が見受けられないが、国籍の割合については、以前からこのような感じか。
（答）
夜間中学校はそれぞれ地域で特徴があり、堺市や八尾市ではベトナム国籍の方が多い。また、東生野中学校では韓国・朝鮮国籍の方が多い。それに対し、天満中学校ではネパール国籍の方が多いということで、その土地柄によって在籍者の内訳も変わってくる。キタの方は、やはりカレー屋さん。ネパール国籍の方がインドでカレーの修行をした後、日本でカレー店を出店、成

功したということで段々と増えてきた。その中である程度基盤をつくって、優秀な方を呼び寄せ、その方々がカレー屋、ビルメンテナンスや清掃会社で従事している。ネパール国籍の方は従順な性格のため、仕事がどんどん回ってくるので、学校でもっと勉強をしたいけれども、仕事で来られないという若い子たちの出席率の現状がある。

（問）

外国籍の方に対し、授業を行う上で難しいことは何か。

（答）

本校の場合、在籍者の半分以上が外国籍の方のため、国籍、日本語の習熟度合い、それぞれののみ込みの早さの違いもあり、授業をどのように進めるのが一番正解なのかというものがない中で、毎日工夫しながらやっている。

（問）

もともと、夜間中学校の理念のスタートは、高齢の方の学び直しであったので、そういう背景があるのかなと自分の中で思いながら授業を拝見したが、外国籍の方が学ぶという部分では、すごく意味のあることと理解する。家庭の事情もあるだろうし、今の社会情勢にも即していると思うが、中学校の教育というよりも日本語教室であると率直に受け止めた。これは、必要なことであると思うが、義務教育課程において、日本国籍でない方が無償で教育を受けることについての思いは。また、日本を好きになってもらうことも必要なことであるが、既卒生の中でどれくらいの方が日本に残っているのか。

（答）

リスキリングとか言われているが、ここで中学校の教育を学んでそれがステップアップにつながるのかな。やはり、私たちは生徒を精一杯何とかしたい、日本で頑張ってほしいという思いがある。日本を好きになってもらいたいし、日本で働く両親は日本語を読み書きできないが、その夢を子供に託しているのかなというふうに感じている。日本という国がそういう人たちにも優しい国でありたいと思う。また、ネパールの生徒が多い理由の一つとして、こちらの先生方は、本当に中学校に入れなかった学齢を過ぎた生徒をボランティア団体から紹介され、生徒の進路や進学のために優しく手厚くやってきたという自負と信頼関係がある。最近は、親御さんが夜間中学校の話を聞いて、子供を進学させたいということで連れてこられる方が多い。在留資格の問題があって、今はパートタイムだが、中学・高校を卒業すると在留資格変更によりフルタイムで働けるようになるため、そこを両親や生徒自身にしっかり理解させ、やはり進学することを目標に取り組んでいるところである。

この後、どれだけ日本に定着してくれているかというところまでは正直追えていない。しかし、里帰りで帰ることはあっても、両親が 10 年以上日本にいらっしゃるので、ほとんど永住権を取得するようになり、家族全体で働

いて、一定の収入ができたというのも親を支える子どもたちの支援ですかね。
　まあ、日本語を話せるようになったらいいと生徒たちは思っているが、教頭である私は文字の読み書きは絶対に必要であると思っている。

（問）

　生徒の国籍がある国、大使館も含めて、それに対する協力や支援はないのか。

（答）

　国としてではなく、個別に入国、在学しているため、そのような形にはなっていないと思うし、今のところそのようなアプローチもない。
　やはり、アジアの国々はこれが産業なので、外国に行って働いて、母国にお金を送るという形になる。

（問）

　夜間学級の教室について、昼間学級との共用かと思っていたが、夜間学級の専用教室であることを確認した。それは、もともと夜間学級を考慮して学校を建設したのか。また、例えば校舎を増築する際に、夜間中学として専用の学校という位置付けにしたのか。

（答）

　この地域は、大阪の中でも一番の繁華街である。昔は小学校が 10 数校あったが、都市化の波で人がどんどん少なくなったと同時に、中学校もクラスが減ったことにより、それまで共用していた部分を徐々に夜間専用の教室にしていったと思われる。
　天満中学校については、27 年前に新築したときに夜間学級の専用教室を設けている。ただし、家庭科室、理科室、美術室や音楽室は共用となっている。
　また、市内のほかの３つの夜間学級も同様となっている。

（問）

　ほかの３中学校も基本的にはそのようなパターンで空き教室を夜間学級に利用しているのか。

（答）

　東生野中学校及び文の里中学校は別館になっている。
　東生野中学校は、昼間学校であったが、夜間学校を設けるということで校舎建て替えのときに、別館を夜間専用にしている。
　また、文の里中学校も校舎を建て替えるときに、別館を造った。

学校法人 きのくに子どもの村学園

視察日時　令和４年７月１４日（木）　午前１０時１０分～午後０時１０分
視察場所　和歌山県橋本市彦谷５１

１．視察の目的

平成４年、和歌山県の北東の端、橋本市の自然に恵まれた環境の中でスタートした。自由学校としては、戦後初めて学校法人として認可された学校であり、子供たちの多くが寮生活を送りながらのびのびと学んでいる。

国内外の教育関係者やマスコミからも注目され、現在、国内において５か所、国外において１か所学舎があり、その自由な校風及び過疎地域における学校運用について視察した。

２．学園の教育方針・概要について

学園の教育方針は、自己決定・個性化・体験学習の３原則を柱とし、感性、知性、人間関係のいずれの面でも自由な子供に育ってほしいとの願いが込められている。

- きのくに子どもの村小・中学校
  （和歌山県橋本市、各学年定員 20 名）
- きのくに国際高等専修学校
  （和歌山県橋本市、各学年定員 20 名）
- かつやま子どもの村小・中学校
  （福井県勝山市、各学年定員 10 名）
- 南アルプス子どもの村小・中学校
  （山梨県南アルプス市、各学年定員 20 名）
- 北九州子どもの村小・中学校
  （福岡県北九州市、各学年定員 12 名）
- ながさき東そのぎ子どもの村小・中学校
  （長崎県東彼杵町、各学年定員 12 名）
- キルクハニティ子どもの村
  （スコットランド）

授業料など（週末帰宅の寮生の場合）
　年額 117 万円【北九州小】～159 万円【高等専修学校】。ただし、授業料のほか、教材費、食費・寮管理費などすべてを含む。
学園長：堀　真一郎
　　勝山市出身、元大阪市立大学教授
教職員：常勤教職員 118 名、非常勤教職員 30 名
　　（令和２年 10 月現在）
※本校舎では、現在、小学校 115 名、中学校 65 名、高等専修学校 65 名在籍し、市内・週末帰宅する子が７割、愛媛・徳島など県外から 25 名在籍。

３．楽しいから学校。楽しくなければ、学校じゃない。

　堀理事長が大学で勤めていながら、どうしても学校をつくろうと思ったのは、小学生の生活実態調査がきっかけであった。「学校で一番楽しいことは何ですか。」との質問に対し、大阪で３分の２が、勝山で４割程度が「友達に会えること。」と回答。一番大事な「学習」との回答が大阪で２％、勝山で５％と、当時の堀理事長にとっては大変ショッキングな結果であって、「学校は、学習するための場所であり、それが一番楽しいと言ってくれる子がせめて３割ぐらいいるような学校にしたいな。」と。

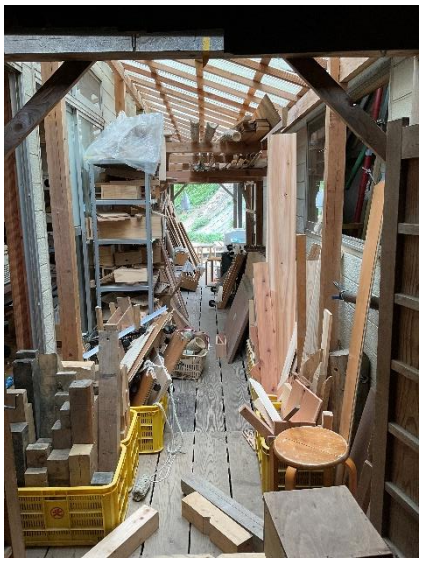
　同学園は、体験学習を中心にプログラム編成し、いろいろ実践しているが、施設見学に来た保護者に「子供たちは元気そうで生き生きしていますね。」と言われる反面、「でも、これで学力大丈夫ですか。高校入れますか。」とよく言われるそうだが、卒業生が進学した高校における校内一斉テストの結果を調査したところ、同卒業生のほとんどがトップクラスであり、驚くほど良い成績であったとのことである。
　明治学院大学の先生のコメントでは、他高校の生徒との違いは、「同学園卒業生はよく質問をする。先生の言われたことをそのまま覚えるのではなく、考える力が結構ついている子が多い。」とあり、それは同学園卒業生自

身の感想においても感じるとのことである。

また、昨年、ノーベル物理学賞を受賞した真鍋淑郎氏が、「今、若者、特に研究者で大事なものは何か。」との質問に対し、「好奇心だ」というコメントを出しているが、同学園の卒業生は、好奇心が非常に強いとのこと。「なんで」、「これはなんや」、「何かわからんけど、もう変や」とか、そのように感覚的に捉えている子が多く、特に、ウクライナ侵攻、水俣病、イタイイタイ病、東日本大震災後の復興、徳島県上勝町にある「ゼロ・ウェイスト（廃棄物）センター」など、国際情勢や社会問題に非常に興味を持ち、可能な限り学園として現地見学に出かけることで、子供の好奇心をさらにかき立てている。

４．好奇心の刺激（理事長 談）

体験学習と言っても、大人が指示した通りにできてうまくいったとしても、それは我々が考えている意味でのプロジェクトではない。子供たちが「なぜ」とか「どうして」とか、感じるようなことにまず食いついてもらって、途中で失敗したり、もうあきらめかけたりするような場面があったとしても、それを大事にしたいと思います。ですから、レシピ通りにきれいにできあがったとしても、それでは体験学習とは言えない。頭を使っていない。そういう点では、ここの子供たちは、大人からいろいろ教えてもらっていない、もらえない、そういう学校なんです。



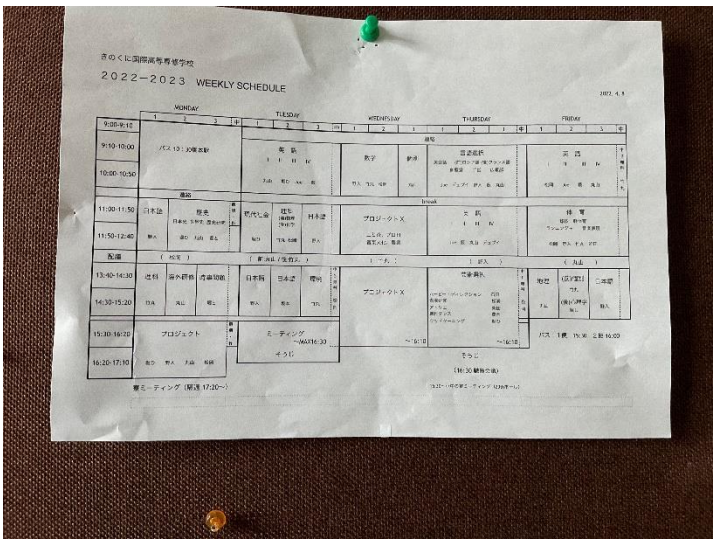
いろいろな材料は用意するし、好奇心も刺激したりします。だから、卒業生たちもいろいろなところで、活躍していますね。

私が印象に残っている子は、小学校の時から将棋が強くて、中学校でもそう言ったのですが、高校に入るときに、大阪の自宅から帰るところにしたいし、公立学校で将棋部がある学校がないかということで探しまして、将棋部がある高校に進学したんです。そのうち、大学入るときに、将棋部のある大学をまた探して、それが東京大学なんですよ。彼はそのあと、大学院も行って、今、どこかの企業の研究職になっているはずなんですけれども。

また、ジャズダンスにはまった子が、今、劇団四季で主役やっていますね。男の子ですけど。かと思えば、ちょうど同じような年の子が頑張って、泣きながら、宝塚歌劇団の正式な団員までなったのですが、なんとその子、３年舞台に立っていたけれど、「宝塚は私の求めている芸術ではない。」と。そういう変わった子がいますね。

それから海外に目が向いてる子がやはり多くて。他の高校の卒業生に比べると、海外に行ってくる子が随分多いと思います。

中には帰ってこない子もいますが、彼氏を連れて帰ってきた女の子もいますし、いろいろです。たまたま、スコットランドに学舎があるものですから、飛行機代プラスアルファーの格安の費用で行けるようにしています。そういう点では、ここの子供たちは随分得していると思います。



５．教職員について

国内５校にて職員の人事異動があるが、もちろんどこの配属になっても同じ考え方である。教職員における一番の特徴として、現在、113 名の常勤教職員のうち、同学園卒業生が 20 名、大学の授業において同学園のことを聞き、興味を持って卒業論文等を書いた学生で卒業後に同学園の教職員となったものが 28 名、現役の保護者や元保護者が 30 名程度ということで、計 80 名程度は身内同様の職員である。また、中には最高齢 84 歳の方で、校長を歴任しても、やはり何かいろいろやり残したことがあると、学園に尽力される方もいる。

給料については、１年目及び年金受給者は安価、２年目以降、年金を受給するまでの間は全教職員同一賃金であり、特別な手当はほとんどない。ただし、子供を育てている教職員については、公立学校の３倍程度の子供手当を上乗せしている。また、ガソリン代や電話代等は、学園で負担している。

６．過疎地の振興（堀理事長 談）

やっとの思いで１年半かかって和歌山に最初の学校ができたのですが、それから６年が経過したときに、勝山市の教育長からお声かけいただきました。山を越えれば石川県なのですが、そこで、「かつては小・中学生あわせて 600 名以上入った学舎が、１人もいなくなってしまった。まだまだそのまま使えるから、こういう学校を教育の場でつくらないか。」というお誘いがありまして。そのときは、ご存知のとおり公立の学校をつくるためには、国から建設費の３分の１を補助してもらえますよね。それが残っていましたので、それを当初の目的どおりに使わないで、私設学校に使わせるということになると、返さなくてはいけないですよね。

そういうことで、その影響が多少残っているんですが、そのときに、たまたま大学の同級生が文部科学省で少し偉くなっていまして、知恵をつけてくれ、最終的に文科省のほうで、そういうふうにして過疎地の振興のためもあっていい話だからと、いろいろテクニックを考えてくれたのです。

そのように、今あちこちで過疎が進んでしまって、もう一つ、今の無駄遣いをしている施設を有効に使ったらどうかという話が北は北海道から南は沖縄まであるんですよ。

これまでの文科省よりはかなり柔軟になってもらっていまして、それから教育のやり方や中身について、我々のようにやっていてもしっかり私立学校として認可してもらい、かつ、補助金も普通の私立学校のように頂いています。今だと文科省もいつも国語、算数、理科、社会にとらわれないで、学習の仕方もいろいろ工夫しなさいと言うようになりました。

そうすると、学校のカリキュラムのことを一生懸命研究なさっている大学の先生たちの学会があり、その席上において、「先進的にやっているところがないのか、あそこだ。」と私に声がかかることが多くなりました。

そのようなことで、和歌山の学舎は土地も建物も学園のものになりましたが、勝山の場合は、本当にお金を使っていないんですよ。お風呂がなかったのでお風呂場をつくったのと、校舎の２階をとりあえず用意したということで、その程度で私立学校が１つできちゃったんですよね。福井県庁の方が本当に快く考えてくださったんですが、そういうことで、お隣の白山市から視察にお見えになるということで、実はなんか「あー。」と思って。今後ともよろしくお願いいたします。

７．質疑応答

（問）

理事長が発刊された書籍を拝見し、冒頭に出てくる子供たちだけで作ったすべり台の話にびっくりした。どうやってすべり台を作ったかということについてもすごい衝撃で、小学生でも習っていない三平方の定義だとか、そういうものを駆使しながら作ってみたら、寸法があわないからどこか工夫が必要だということを自分たちで考えてやったというふうにあった。社会情勢に対してもとても敏感だということで、子供たちのおやつ代も節約して、浮いたお金を寄付したとか。

（答）

寄付は、東日本大震災があった時ね。

すべり台製作を指導したのは副理事長です。

（問）

何か問題があるとそれについて徹底的に話をし、多数決ではないと伺っている。また、地元のお母さんたちが映画「夢みる小学校」を見た中で、寮生活が長期制度で、ほとんど１か月に１度ぐらいしか帰れない子供たちが休み時間などのときに、ゲームを持ってきていいのですか、また、しているのですかという質問があったが。

（答）

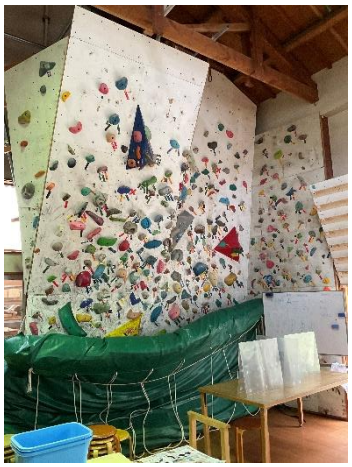
ほとんどの子供が１か月に１度しか帰らないというわけではなく、１週間なので。最初は、ゲームを持ってきてもらったりとかしていたのですが、どうしても他の友達のカードをもらったりとか、借りていた物をなくしたとか、そういうトラブルが起こるたびにミーティングをするんですね。まず、ゲーム機に係るミーティングは２か月続いて、結局やめてみようということになって、まずゲーム機がなくなった。次は、スマホを寮に持ってきてもよかったのですが、やはりトラブルが。夜中に落ちかけていたとかそういうことが多くて。また、ホームシックになり、大人の方もそれを感じていたところに、子供たちもまずラインで返事をしないといけないとか、そういうことがいろいろ出て、それも２年近く話合いが延々と続いて、今は、月曜日の朝、学校に登校したら大人に預ける、帰るときにまたもらって帰るというふうに決まったんです。もう本当に長いミーティングでした。

ただ、我々が決めたのではなく、大人も子供も一緒のミーティングの中で、そういう結論が出て、お互いに気をつけて守っているみたいです。

やはり、物があるために逆に不便な生活になっているとか、それに気づきだしたりとか、問題を考えたりとか、そういうことにすごい時間がかかって、頭で考えているような生活で、１回なくして１週間やってみて、その結果どうだったか、というまで繰り返しあるので、時間がかかるんですけれど。

（問）

入学を希望した人は全員入学できるのか、何か選抜しているのか、その辺りはどうなのか。



（答）

まず、ベッド及び通学バスに空きがあるかどうか。定員はしょうがないところですが、どうしても入りたいと思って、あるいは私どもの所に入れたいと思ってくる子には２泊３日又は３泊４日で体験してもらいます。それで、ここを気に入ったから明日からでも行きたいというふうに言ってくれる子は、まず第１関門突破で、その次は親御さんと面談します。中には、うちの子が学校でうまくいっていないから何とか面倒見てくれる学校を探していたという人もいっぱいいるわけです。私たちの考えに賛同してくれたらいいなと。子供のことで困っているからという方もあるので、その辺のところをきちっと確認させてもらう。

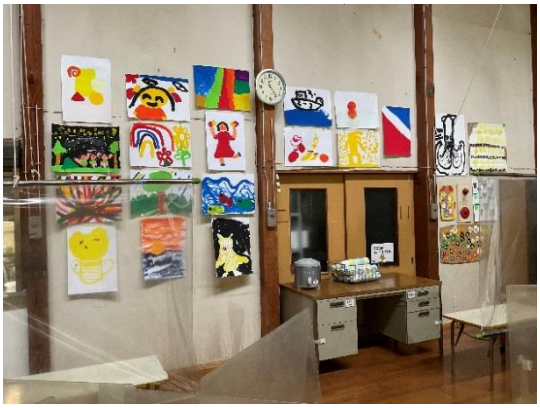
例えば、発達障害という診断を受けている子であっても、その２泊３日又は３泊４日の様子を見て、大丈夫だろうと思えば入ってもらうようにしています。実際、医者からいわゆる発達障害ですという診断が出た子がこの学校に８名入ってきております。うち６名は全く普通の子でした。２名については少し時間がかかりましたけれど。

ということは、ごく普通の子なのに、学校で先生と折り合いが悪いとか、いじめっ子がいるとか、そういったことが原因でどうも馴染めないという、そういう子だけだと思うんです。

真面目だし、ミーティングではちゃんと小さい子の面倒を見るしというのは必要なのかなと思いましたけれど。その子はもう、いわゆる発達障害の子たちのための学校に行くか、そういうクラスに入りなさいというふうに学校から言われたが、お母さんがどうしても納得できないと訪ねてこられました。

そういうケースもあるので、今、いわゆる支援学校が昔の養護学校に比べて３倍も４倍も数が増えていますが、本当は何でもない子もたくさんそこへ送られているのではないかと心配しております。

（問）
入学を断るほうが多いのか。
（答）
定員がありますから。勝山はベッドが足りないんです。
もう一つお断りするケースは、その２泊３日又は３泊４日の間に、小さい子や弱い子に対して手が出る、足が出る、噛みついて回るとか、そういうことが時々あるんですね。その子が入ってくると、小さい子や弱い子が迷惑しますので、それはごめんなさいということもあります。
それから、極端な場合は、目が全く見えないのだが、何とかしてくれないかと。それは、当然なんとかしてあげたいと思うけれども、こういう小さな学園で、職員１名を増員する必要が生じる。これはごめんなさいというふうにしています。
小学校１年生については、募集が９月ぐらいから始まります。昨年で言えば、40 数名のうち、来ていただいたのは 20 名でした。お断りはやはりあります。あと、学年によって転入・転出もありますが、ベッドと通学バスの状況によって待っていただいている状況です。
（問）
特別な支援を求めている保護者の方はやはり多いのではないかと思う。また、いろいろな不登校の子であったりとか、そういったことを伺ってみると、きちっと対処できれば、そうはならないのではないかと感じるが、そういうことを聞かせていただきたい。



（答）
実際問題、不登校が原因で入ってくる子というのは、本当に 100 人中２～３名いるかどうかなんです。だんだんわかってくるのですが、その前の学校で昔からいじめられているのではなくて、先生からいじめられていたというケースもありました。授業を乱す質問が多いために、先生が授業を進めにくいという言い方をされたとおっしゃっていた。特に、授業参観の日にその子がいろいろ質問をしたらしいです。それで、お母さんが後ろで見られていて、今日はこの授業をするという指導案を先生が出されているのに、それに進めなかったということで、すごいバッシングがあったらしく、先生からいじめられて。それから保護者のグループからもそう言われたり、また、近所の人が家庭にまで言いにこられて、もうすごいつらかったと。それで、この学校に来て３年ぐらい経ってから、やっといじめられたということを自分の口から文章に書い

て言えたという子もいました。

（問）

例えば、大工工事であるとか手づくりのピザだとか、絵を書いたり、いろいろな体験学習をされているが、先生がほとんど教えないというか、１から 10 まで教えることはしないと。その辺のさじ加減というか、例えばテラスを作るというゴールがある中で、じゃあ、インパクトとドライバーをどう使うんだ、何をどう使うんだというところを、どの程度まで指導されるのかということが全然イメージできていない。そこに携わる先生方というか、今、どういうふうにして意識共有されているのか。

（答）

それはまずは、やってくれているのが元在校生であったり、大学でいろいろと勉強して、私の本を読んでやってくれたりするので、そういう点では楽なんですけれども、時々は、こういう時はこういうふうに言ったほうがいいよとかね。例えばこれはもう明らかに家庭の問題なんですが、まだ落ち着かない女の子がいます。その子はずっと、ほとんどの場合、黒い服を着ているのですが、今日、本当に初めて見るくらいきれいな赤い服を着てたんですね。こういう時にどう声をかけるかというようなことは、初めて来た教員はわからないのですが、こういう時には「いつもの黒と違ってきれいな赤だね。」というようなちょっとした一言をかけてやってほしいと。そういう声を一言かけてもらうだけで違うんですよ。実際、先ほど私は向こうの建物の中にいたのですが、あれほど落ち着かなかった女の子が今日は落ち着いているんですよ。だから、そういう子供に対する関わり方については、私の方でも時々注文を出しています。

例えば、同じことを言うのでも、時計を見て、今 11 時 15 分ですが、11 時 30 分までに何かしなきゃいけないことになっていたとして、そういうときに

普通の大人、普通の先生は、「ちょっと時計をよく見なさい。時間があと 15 分しかないよ。急がないと間に合わないぞ。」ということが多いと思うんです。でも、うちの学校の教職員たちは、その言い方をしてはいけないことになっているんです。

時計を見て、「まだ15分あるよ。急いだら間に合うよ。」と。この言葉のかけ方一つにしてもね、そういう工夫というか、細かい所まで、時々研修をしたり、思い出してもらったりします。

だから、ここの学校の教職員たちは、細かいテクニックを身につけているんですね。それから、ミーティングの時にも、話し合いをしている時も、慣れない新米の先生は、かなり前の方に行って、多数決するときには、すぐに手を上げるんですが、それは駄目なんですよね。できるだけ後ろの方で、目立たないように座って、挙手をするときは、みんなより先に手を挙げてはいけない。上の方がぞろぞろと下げたときになって、そっと手を挙げてくださいと指導しています。

また、例えばのこぎりが切れない子がいて、切りかけても斜めになっていく。これだったら箱を作ろうとしても、絶対斜めになるし、うまくいかないと。そのときに、「ほんと切れない、切れない。」とその子が言うと、そばにいる託児家庭教師の大学のお兄さん方が板を押さえてあげて、動かないようにサポートする。お手伝いはしても、「切れないか、そうなんや切れないな。」とそういう言葉を繰り返すだけで、「ちょっとこうやったらよく切れるよ。」とかそういう言葉は使わないようにしている。そこがすごい我慢なんです。

それでも、もう少し踏み込んで声をかけることもあります。

例えば、のこぎりを使ったことのない子の場合、しばしば押して切ろうとするんですが、そういう時も「引っ張った方がよく切れるよ。」とは言わずに、「こんなふうにした時と、こういうふうにしている時と、どっちが粉が余計落ちる。」って、わざわざ聞こえるように１人ごとのように言うと、やってみるんですよ。

（問）
縦割りというか、最初はお兄ちゃんやお姉ちゃんとかがあるのか。
（答）
もちろんあります。
そういう子がいてくれるほうが害はないというか、子供らが素直に入っていきます。私なんか特に電磁系とかそういうのが大嫌いだったんですが、そうすると「あっ、これ弱かったね。ごめん。」と言って帰っていくというか、「誰かそういう得意な子に聞くわ。」という感じになります。
（問）
それはありなのですね。
（答）

ありなんです。やはりのこぎりの使い方やのみの使い方で、最初にこうしたほうが危険じゃないっていうこととか、うまくいくというのは、みんなにお知らせが必ずあるんです。ここは危険だからこういうふうにしようとか、ドリルの使い方とかは最初の説明はあって、ほったらかしっていうことはないです。
そうしないといけないじゃなくて、このほうが安全だから、という言い方はします。日常的な細かなところに気を使ったり、やり方を考えたりしています。

和歌山県橋本市　人口（R4.5.31 現在）60,628 人　面積 130.55 ㎢

視察日時　令和４年７月１４日（木）　午後１時３０分～午後２時５５分
視察場所　橋本市庁舎：和歌山県橋本市東家一丁目１番１号

１．市の概要

橋本市は、和歌山県の北東端、紀伊半島のほぼ中央に位置し、北は大阪府河内長野市、東は奈良県五條市、南・西では和歌山県伊都郡かつらぎ町、九度山町、高野町と接している。和歌山市、大阪市の中心部への距離は直線でともに約 40 ㎞であり、京阪神エリアへの交通も便利で、緑豊かな田園である。

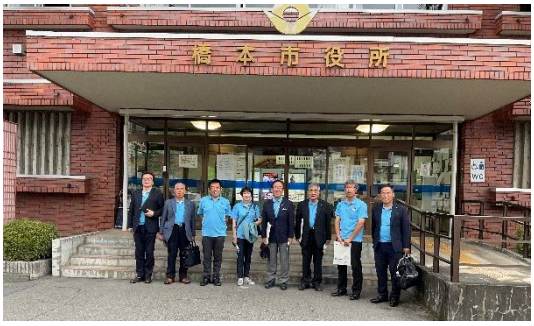
交通面では、私鉄・南海高野線が大阪市と高野町、ＪＲ和歌山線が和歌山市と奈良方面を結び、幹線道路は、和歌山市と京都市を結ぶ国道 24 号、南北方向には大阪府、高野山方面に国道 371 号や 370 号が走っている。また、現在、京都市と和歌山市を結ぶ京奈和自動車道が一部を除き供用開始され、橋本市内３つのインターチェンジは当市における「黒河道」をはじめとする世界遺産の高野参詣道へのアクセスに便利である。

大阪中心部へは電車で最短 40 分程度の所要時間であることから、昭和 50 年代からの大規模住宅開発を契機に一時人口が急増し、住宅都市として発展してきた。しかし、近年は人口減少に転じていることから、積極的に企業誘致に取り組んでおり、当初予定していた誘致用地については、約９割が分譲済となったため、新たな工業団地であるあやの台北部用地を整備している。

また、誘致企業の人材確保も含め、市内での就職や移住につなげるために、当市への定住支援にも取り組んでいる。

２．視察の目的

橋本市では、「子どもも大人も共に育ち、育てあう」という意味で創られた「共育コミュニティ」において、学校・家庭・地域が一体となって、子供の豊かな育ちや学びを支える中で、子供も大人も共に育ち育てあい、人と人とのつながりをより深め、暮らしやすく活力のある地域づくりを目指している。



橋本市庁舎

市内に７つの活動本部があり、各本部では共育コーディネーターが中心となり、学校と地域をつなぐ窓口として、学校と地域との連携、連絡調整、地域での広報活動等を担っている。

今回は、当事業の概要及び運用方法について視察した。

３．視察項目「共育コミュニティ（地域学校協働活動）」について

（１）事業概要について

第２期橋本市教育大綱では、「人が学びあい、共に育むまちづくりー自治と協働のまち橋本市に向けてー」を理念としており、この理念そのものが共育コミュニティで目指しているものである。

当該事業の拠点となる共育コミュニティ本部は、地区公民館（８館）が位置する地域を基盤に組織し、平成 20 年度に組織された高野口地域を筆頭に７地域・中学校区で組織され、市内全域を網羅している。

本部員は、地域の方、学校関係、共育コーディネーター、地区公民館関係、教育委員会関係など定期的に会議を開催し、地域と学校が連携する活動の決定や情報交換・共有を図っており、運営は各本部の実情に合わせて多様化している。

（２）共育コーディネーターの役割について

共育コーディネーターは、学校・家庭・地域の求めるニーズを受け止め、調整する役割を担う共育コミュニティのキーパーソンである。学校と地域との協働活動を見直したり、新たに生み出したりすることで、より多くの方の参画による継続的な活動を通じ、人と人とのつながりの再構築を図っている。

現在、７本部に 12 名配置されており、元教員が従事されているケースが多い。また、なかなか成り手がいない現状がある。

上記 12 名は、小学校 14 校のうち 12 校もそれぞれ受け持ち、各種団体との橋渡し役を担っており、毎月１回のコーディネーター会議、年２回の共育コミュニティ推進協議会を通じて、市や他本部と情報共有を図ったり、熟議をしたりしている。

また、共育コーディネーターとは別に、放課後子供教室専門のコーディネーターも存在している。

（３）学校運営協議会（コミュニティ・スクール）との連携について

和歌山県では、平成 29 年度から３年を導入期間とし、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を導入するということで各市町村に通達し、橋本市においては令和元年度にスタートした。既に共育コミュニティが運用している中で、「共育コミュニティ」と「コミュニティ・スクール」とで、何が違うんだということで少々混乱が起きたそうであるが、現在は少しずつ整理しながら運用している状況である。

「コミュニティ・スクール」では、各学校の特性を生かして、各学校が目指す子供像・学校像などを、学校長のマネージメントにより協議会等の会議にて決定、運用するのに対し、「共育コミュニティ」は、学校自体の特性というよりは、もう少し大きな単位で考えたコミュニティの方向性があり、実際に活動していきながら、各共育コミュニティ本部が目指す子供像・地域像などを、共育コミュニティ本部会議で熟議している。

この「共育コミュニティ」と「コミュニティ・スクール」が、「ふるさとの未来を託せる子供を育てるために」という共通の目標に向けた連携・協働を実践していくということが、和歌山県が推し進める「きのくにコミュニティスクール」である。

（４）今後の取組について

「共育コミュニティ」と「コミュニティ・スクール」とをいかに連携させていくのかが課題であり、いろいろな意見を共有することや、協働の仕掛けをつくることがポイントとなる。

まず、組織の視点として、「コミュニティ・スクール」を所管する学校教育課、「共育コミュニティ」を所管する生涯学習課の連携・協働はもちろんのこと、福祉なども含めた行政の横ぐしを通すことや、子供・大人の学びとして、ＳＤＧｓの目標達成のための「ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）」を総合的な学習の時間で学び、地域の方が関わるカリキュラムを作成することなどが挙げられる。

４．主な質疑応答

（問）

共育コーディネーターの身分及び報酬は。

（答）
　共育コーディネーターは毎年度委嘱している。また、参加地域の方はボランティアであるが、共育コーディネーターについては１時間につき 1,200 円であり、活動日誌等の作成を踏まえたうえで、支給している。
（問）
　身分的には委託職員的な扱いか。

（答）
　委嘱なので、その活動をしているときは公務員として活動していただいている。
（問）
　共育コーディネーターが各小学校に１人ずつ配置されているということだが、比較的自由に活動しているのか、一定の計画があってそれに沿って活動しているのか、実態はどうなのか。
（答）
　学校の支援をしながら地域とつながっているが、何か縛りがあるわけではなく、それぞれの共育コーディネーターが自由に活動している。
（問）
　共育コーディネーターが鍵となって、どういう活動をし、どう繋ぐかということが非常に大事であると思うが、委嘱という形ではなく、例えば、市職員的な立場としてもう少し仕事的にやってもらおうという考えはないか。
（答）
　あくまでも学校の支援の中において活動する形となっており、それも本部会議では、我々市職員や各公民館職員と共に一体的に活動しているので、現時点で共育コーディネーターを市職員的な立場とする考えはない。
（問）
　共育コーディネーターを委嘱するにあたっての人選の流れは。
（答）
　基本的に、現在の共育コーディネーターに引き続きお願いしている現状であり、あまり入れ替わっていない。交替する場合は、地域でボランティアをしている方や学校に関わっている方で、かつ、共育コーディネーターの活動を熟知している方にお願いすることが多い。また、退くコーディネーターや校長など関係者の人づてに適任者がいないか聞いたりもし、お願いしている状況である。
（問）
　お願いは学校からするのか。

（答）
生涯学習課からお願いする。
（問）
共育コミュニティをスタートするにあたり、地域を支える組織と学校との関係は、最初からすぐにつながったような形だったのか。
（答）
地域によって大分違う。健全育成を熱心にやっている地域では、もともと健全育成会の事務局など地域団体の関係者の方が共育コーディネーターを兼ねており、健全育成との連携事業がすごく多く、そこから人を呼び込む形となっている。他の地域では、地域ボランティア、育む委員や民生委員などからつながってコミュニティにしている。また、本部組織では、基本的に学校の先生や公民館職員がおり、そこに地域の人をどんどん増やしていければという感じである。
（問）
共育コミュニティとコミュニティ・スクールの運用に関し、何か弊害はあるのか。
（答）
現状において、コミュニティ・スクールは校長先生が主導で動いている会議体になってしまっているので、地域の人の意見が反映される形になるには、まだ時間がかかると思っている。なお、コミュニティ・スクールには、共育コーディネーターも参入している。
（問）
共育コミュニティ本部に所属してる人は、学校担当ではなく地域の学校の担当というイメージなのか。
（答）
お見込みのとおり、共育コミュニティ本部の方は、その地域の中学校区の担当である。例えば、その地域に３つの小学校があって、それぞれ共育コーディネーターが担当しているのに対し、本部会議は中学校区全域を担当している。

（問）
その場合、３人の共育コーディネーターがいて、中学校区を誰が担当するのかということを、３人の話合いで決めるのか、それとも各校区において自由に決めているのか。
（答）
複数の学校があるところの場合は複数の方で決めているが、音頭をとって

くれる方もいる。ルールは特にないが、皆さんでやっていっていただいている。

（問）

イメージ的には、各小学校に１人ずつ共育コーディネーターが配置されているとともに、中学校にも１人配置されてもよいのではと思うが、そのあたりの見解は。

（答）

実際、共育コーディネーターからもそういった要望はあるが、そもそも全ての小学校にも配置できていない実情もある。人材の確保という問題があると同時に、小・中学校で連携してほしい部分もあるので、兼務されているほうが、縦のつながりはやりやすいかなという思いもある。

（問）

共育コーディネーターについて、適任者がいたら増やしていきたいという意向はあると思うが、それでよろしいか。

（答）

お見込みのとおりだが、小学校について 14 校のうち２校に共育コーディネーターがいないので、まずはそこから優先的に働きかけている。

（問）

自治会、子ども会、老人会など地域のコミュニティとはどういうふうにして、共育コーディネーターが溶け込んでいるのか。日頃から、学校と公民館が積極的に連携しているという実績があった上でのことなのか。

（答）

公民館長と校長先生との連携は日々していただいていると思う。

また、地域のコミュニティと共育コーディネーターとのつながりについては、もともとつながっている方が多い反面、なかなか広がらないのが共育コミュニティの難しいところである。組織同士でセッティングしてしまうと、それぞれの思いが交錯するので、この取組を徐々に知ってもらうという意味では人づてに数珠つなぎにというようなイメージである。

（問）

毎月１回開催される共育コーディネーター会議について、コーディネーター同士の情報共有の場だと思うが、主にどのような内容の話をするのか。

（答）

基本的には、その１か月間の取組や取組における反省、悩みの相談などである。また、今年は、講師を派遣し、「子供像」というテーマで、それぞれ意見を出し合い、お互いどういう考えなのかという話合いをしている。

（問）

共育コミュニティ、共育コーディネーターができたきっかけは。

（答）
当初、県が学校新地域本部事業を進めていく過程において、住民の方が手を挙げてくれて、ボランティアが始まったというふうに聞いている。
（問）
放課後子供教室のコーディネーターとの連携について詳細を教えて欲しい。
（答）
放課後子供教室という事業自体あるが、これはあくまでも放課後や夏休みなどに学校の空き教室を使って、主に体験を兼ねた工作などをしているが、それを計画したり、当日運営する方を、放課後触れ合いルームのコーディネーターとして委嘱している。共育コーディネーターと兼務する方、共育コーディネーターのみの方、放課後触れ合いコーディネーターのみの方とそれぞれいる。
（問）
共育コミュニティには見守りや図書館ボランティアなど、いろいろな分野にまたがるが、その横のつながり的な場はあるのか。
（答）
「共育ミニ集会」という場において、関係者が集い、講演会や情報交換をしているが、最近はコロナ禍で開催がストップしている。
（問）
もちろんそういうことが必要であると感じていて、横のつながりで増えたりするという効果が見込めるということなのか。
（答）
お見込みのとおり。やはり、一番難しいと感じるのは、コミュニティ・スクールもそうだが、共育コミュニティも、まだまだ市民に浸透していないのが現状であり、周知不足が否めないので、そこをどのようにアピールしていくのかというところが課題である。
（問）
資料の中に「地域に開かれた教育課程」とあるが、例えば、運動会、マラソン大会、走り方教室などの学校行事において、地域との特別な関わりが何かあるのか。
（答）
県内の先進事例を基に作成しているが、試作段階であるため、実際はまだ実施していない。

（問）
　コミュニティ・スクールと共育コミュニティとの連携ということが、これから取り組んでいく大きな課題であろうと思うが、連携の中で何か手応えがあったか。
（答）
　連携での手応えはまだない。また、そこの橋渡しをしていただくのが共育コーディネーターになってくると思う。
（問）
　現状において、共育コーディネーターに係る費用負担の内訳は。
（答）
　今のところ、市・県・国で３分の１ずつの負担である。
（問）
　共育コーディネーターに係る年間予算はいくらか。
（答）
　昨年度は 500 万円程度、今年度は 480 万円程度である。予算が減額した理由は、別途、会計年度任用職員に関するものであり、共育コーディネーターについては、あくまでも時間に対して支給している。
（問）
　橋本市では、共育コミュニティ本部が各地域・校区に７か所もある。全国的に市町単位で１か所というパターンもあるかと思うが、今後、コミュニティ・スクールとの連携の中で、いろいろと課題が出てくると思うが、今後も現状パターンで運営していくのか。
（答）
　共育コーディネーターを熱心にされている方がたくさんいて、また、各本部でかなり活動内容が違うので、一緒にしていくことは難しいと思っている。橋本市の成り立ちとしても、両コミュニティがそれぞれ先行しているので、こちらもその説明が難しいと思っている。

堺市　人口（R4.5.1 現在）817,322 人　面積 149.83 ㎢

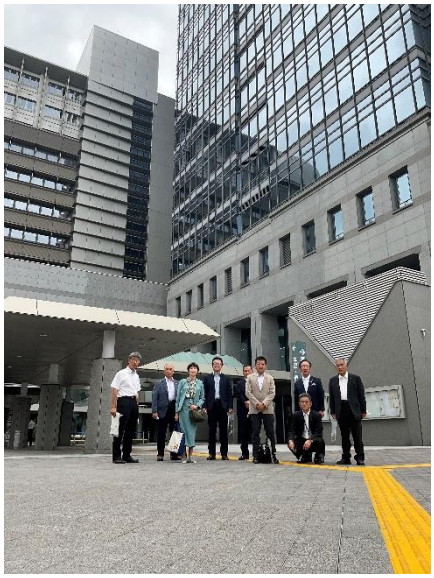
視察日時　令和４年７月１５日（金）　午前９時５４分～午前１１時
視察場所　堺市庁舎：堺市堺区南瓦町３番１号

１．市の概要・歴史

堺市は、大阪府泉北地域に位置する日本の政令指定都市。

大阪府による地域区分では泉北地域とされるが、市制施行時の堺市域や南河内郡の旧郡域など歴史的に泉北郡ではなかった地域が多く含まれており、他の泉北地域３市１町とは区別されることもある。大阪府内で人口・面積ともに第２の都市であり、人口は令和４年１月１日時点で佐賀県・山梨県・福井県・徳島県・高知県・島根県・鳥取県を上回る。一方、居住人口に比べて昼間人口の割合が低く、大阪市の衛星都市としての特徴も併せ持っている。

大阪平野のやや南を西流する大和川の左岸下流域に位置する。大阪湾に西面し、北は大阪市、北東は松原市、東は羽曳野市、富田林市、南東は大阪狭山市、河内長野市、南西は和泉市、高石市に接している。市内は７つの行政区に分かれ、堺区が北西部に、美原区が東端部に位置するほかは、中区・東区・西区・南区・北区と方位による区割りとなっている。


堺市役所

古代には仁徳天皇陵古墳をはじめとする百舌鳥古墳群が築造され、中世には海外交易の拠点として「自由・自治都市」を形成し、わが国の経済、文化の中心地として繁栄してきた。戦後、臨海コンビナートと泉北ニュータウンの造成により、現在の姿に。82 万人弱の人口を有する政令指定都市である堺市は、南大阪の中核的都市として、関西の文化・経済を牽引している。

２．視察の目的

晩婚化や出産年齢の高齢化に加え、家族構成の変化などを背景に、子育てと親の介護を同時にしなければならない世帯（ダブルケア）の問題が指摘されるようになっている。

介護を理由とする離職者は、近年、毎年 10 万人前後発生し、国も「介護離職者ゼロ施策」を展開しているが、今後、全国で 25 万 3,000 人がダブルケアに直面すると推計している。

堺市では、平成 28 年度より、現状とニーズの把握、個別支援の実施、市民理解の推進、施策の推進を図っているところである。
今回は、当事業の概要及び運用方法について視察した。

３．視察項目「ダブルケア支援事業」について

（１）ダブルケアとは

同時期に子育て（18 歳未満の子供や孫）と介護の両方を行っている状態であり、例えば、子育てしながら、親の介護もされている方や孫の世話をしながら、配偶者の介護もされている方などである。

（２）現状とニーズの把握について

子育てや介護によって離職することなく働き続けられる社会の実現を目指し、企業における支援策、子育てや介護による離職の現状等を明らかにし、今後の課題や必要な支援策を検討する目的で、平成 28 年７月末に市内在住の 18 歳以下の子供･孫を持つ保護者及び要介護等認定調査申請者 7,165 世帯に調査票を郵送配布し、うち 1,448 世帯から回答があった（回答率 20.2%）。
分析方法は、子育てのみ世帯（回答数 976）、介護のみ世帯（回答数 204）、ダブルケア世帯（回答数 268）に区分して分析した。
分析結果のまとめは下記のとおりである。
①ダブルケア世帯では、ほかの世帯に比べて施策の充実感が低い傾向が見られたため、ダブルケア世帯への相談支援の機能強化が必要。
②子育て・介護と仕事との両立を図るために必要なこととして、「職場の制度・支援の拡充」や「職場の理解」といった企業側で取り組むべき課題のほか、「保育・介護施設優先入居」や「子育て・介護サービスの充実」といった市の施策としての課題も挙げられているため、介護離職防止には、企業側からの支援と市の施策の両方が相まって、子育て及び介護を担う世帯を支えていくことが重要なポイントとなる。
③地域包括支援センターにおいて、介護の相談支援とともに、子育てに関する相談に応じていくことが重要であるため、専用相談窓口を平成 28 年 10 月より基幹型包括支援センターに設置したが、これを広く周知し、充実させていくことが必要。

（３）地域包括支援センター・基幹型包括支援センターについて

堺市では、市内を 21 の区域に分け、その区域ごとに地域包括支援センターを、７つの区役所内には基幹型包括支援センターを設置し、市が委託した法人が運営している。

堺基幹型包括支援センター

地域包括支援センターでは、高齢者がいつまでも住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、介護・健康・福祉・医療など、様々な面から支援を行っている。

基幹型包括支援センターでは、高齢者総合相談窓口を設けるとともに、虐待等の困難事例では地域包括支援センターと連携して対応している。また、ダブルケア世帯に対する相談窓口を開設しており、介護や子育てなどの知識がある専門職員が相談に応じ、関係機関との連携や利用できる社会資源、制度の案内をしている。

（４）相談状況について

平成 28 年 10 月３日、各区の基幹型包括支援センターにダブルケア相談窓口が設置されてからの相談件数は下記のとおりである。

（単位：人、各件数の右欄は前年度比）

年度	相談件数					
	ダブルケアの方が相談に来た件数		具体的に相談のあった件数		合　　計	
H28	108	－	12	－	120	－
H29	178	70	34	22	212	92
H30	247	69	120	86	367	155
R元	343	96	267	147	610	243
R２	354	11	154	▲113	508	▲102
R３	234	▲120	70	▲84	304	▲204

相談窓口を設置して以降、相談件数が令和元年度まで順調に伸びていたが、令和２年度から急激に下がっている。これは、新型コロナウイルス感染症拡大によるものと推測される。

（５）施策の推進について

子育て介護負担の軽減、介護離職防止に向けた施策推進として以下の支援策を実施している。

①ダブルケアの方が体調不良等で一時的に介護ができなくなった場合などに、ダブルケア以外の方は年間７日間以内に対し、ダブルケアの方は原則として年 30 日以内、要介護者を一時的に特別養護老人ホーム、養護老人ホームや軽費老人ホームへ入所させることができる。

②ダブルケアの方など育児、就労で介護が困難な世帯について、市内の特別養護老人ホーム等に入所する際の入所基準を緩和（入所基準でダブルケアを加点、特例入所の要件にダブルケアを追加）。

③認定こども園、保育所などの入所申込みの加点項目を見直し、要介護１以上の親族の介護をしている場合は、２点を加点（上限 10 点）。